

平成 30 年度
伊勢原市市民協働事業報告書

比々多地区周辺における農・文化資源を活用した
地域活性化プログラム開発

伊勢原市都市部都市政策課

東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科 准教授 町田 怜子

平成 31 年 3 月

1 市民協働事業

(1)伊勢原市提案型協働事業制度の概要

伊勢原市の提案型協働事業提案制度は、市民のみなさんが感じていることや気づいたことについて、市に提案してもらい、または、市が実施している事業やこれから実施する事業のうち、市から市民活動団体へ提案して協働を呼びかけるなど、市民の皆さんと市がそれぞれ持っている力を出し合いながら、一緒に取り組んでいこうというものです。

①提案型協働事業の対象

▶ 対象となる団体等

特定非営利活動法人(NPO法人)

市民活動団体・ボランティア団体

地域コミュニティ組織

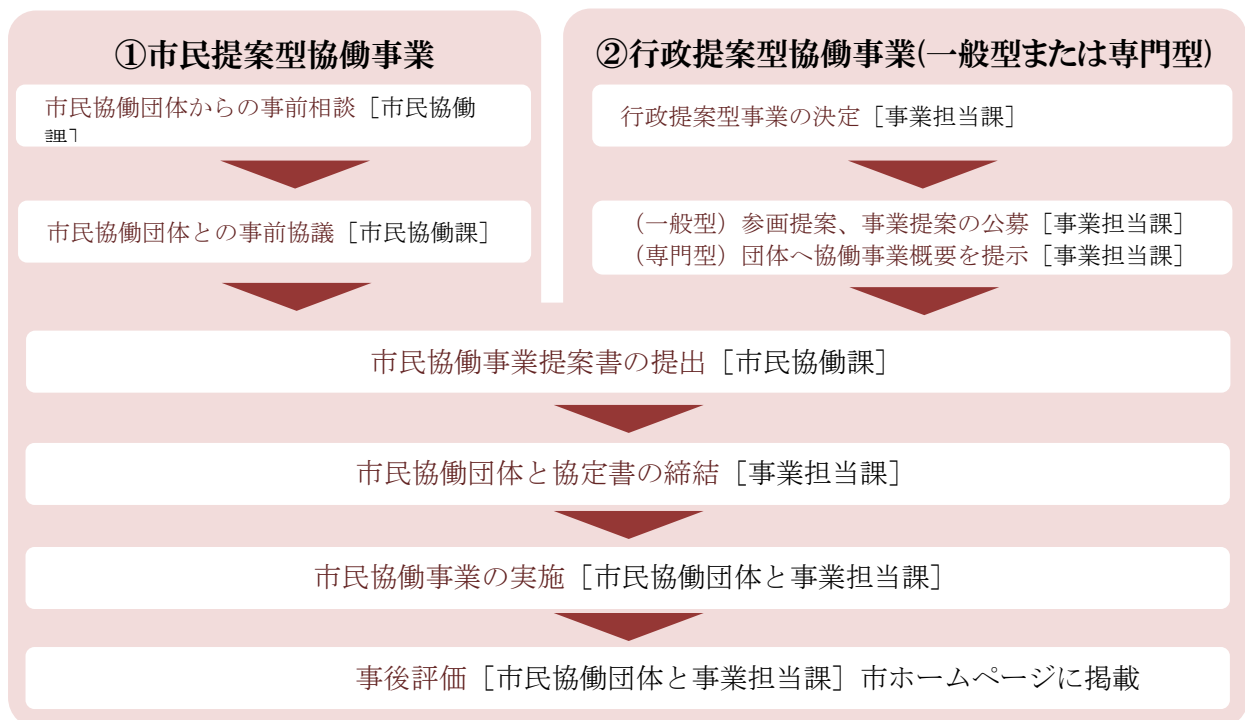
その他の市民活動団体等
(教育・研究機関、公益団体、民間の事業者など)

▶ 対象となる事業

- ①市民が受益者となる公益的な事業
- ②市民活動団体の先駆性、専門性等の特性を活かした事業
- ③市民活動団体と行政の役割分担が明確かつ妥当であり、協働で実施することにより相乗効果が期待できる事業
- ④原則として、事業の実施年度において、市の他の制度による補助金等の対象になっていないもの

②提案型協働事業の進め方

伊勢原市の提案型協働事業提案制度は、①市民提案型協働事業と②行政提案型協働事業(一般型または専門型)があります。



(2) 協働事業について

①協働事業の目的

本協働事業は、比々多地区の美しい農村景観、由緒ある文化的資源を活用し、比々多地区の地域住民、多様な主体の交流を促進する地域活性化プログラム開発とその基礎的研究を行うことを目的とします。

②協働事業の区分及び主体

提案の区分：行政提案型協働事業（専門型）

事業の主体：伊勢原市都市部都市政策課

学校法人東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科

地域デザイン学研究室 准教授 町田玲子

協定の締結：平成 30 年 6 月 28 日

③協働事業のテーマ

『比々多地区周辺における農・文化資源を活用した地域活性化プログラム開発』

【背景】

本市の西部に位置する比々多地域は、住宅地・工業地・田園地・山地と多様な顔を持つ地域であり、比較的温暖で豊かな自然に恵まれた環境を生かし、みかん・なしなどの果樹栽培や稲作といった農業も盛んです。

都心部のベッドタウンとして発展してきた伊勢原市において、貴重な里地里山の風景が広がっている地域です。

歴史的にも、古くから東西交通の重要な道であった東海道の脇街道として機能していた矢倉沢往還道や、また、三嶋神社、勝興寺、聖峰不動尊などを始めとした多くの寺社仏閣があり、古くから集落を形成し、人々が豊かな自然や環境と調和しながら生活をしてきた地域であることが分かります。

また、地域では、拠点やランドマークでのお祭り活動や清掃活動、植樹活動などを通じて地域コミュニティの活性化を図っています

一方で、現在は、人口減少・少子高齢社会の進展、都市化の進展により、農家の高齢化や後継者不足などに起因する農地や山林の荒廃など様々な問題を抱えています。

こうした問題に対処する方策の一つとして、地域に存在する様々な資源を活用し、都市部や他地区の住民、学生などの多様な主体との交流を通じて、継続的に地域を活性化していくことが考えられます。

このような中、東京農業大学では、自然環境の恵みを持続利用し、多様な主体との交流や連携を通じて、文化、伝統技術、知恵を継承した、人と自然が共生する豊かな暮らしと地域らしい生業を導く「地域デザイン」の探究及びその人材の育成を目的とする地域創成科学科を平成 29 年度に創設しました。

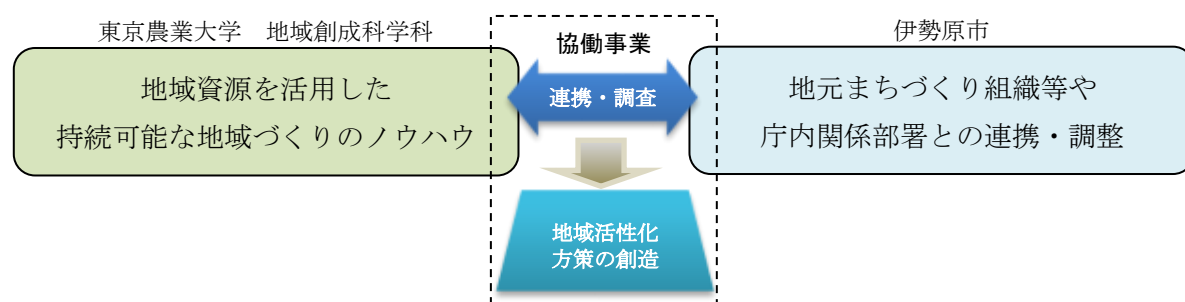
また、伊勢原市比々多地区には、東京農業大学の伊勢原農場があり、平成 23 年度から園芸作物の野菜・造園・農業機械の各部門、平成 24 年度からは園芸作物の果樹・花

卉部門も厚木キャンパスから移転し、各種の実習教育と研究がここで進められています。

また、東京農業大学では、平塚市の吉沢地区において、地元協議会と共に産学官民の連携による景観まちづくりを実施しています。

このため、本協働事業により、大学の先駆的な取組により積み重ねられたノウハウを地域づくりに生かすとともに、本事業を通じて学生（大学）と地域、行政による新たな交流が生まれ、農資源、文化資源、歴史資源といった地域らしさを生かした新たな地域活性化の方策の創造が期待されます。

比々多地域における協働事業のイメージ



(3) 協働事業の概要

本協働事業は、市と東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科との協働により、平成 30 年度は次の事業を実施しました。なお、本協働事業は継続的な取組が必要なことから、地域の御理解と御協力をいただきながら取組を進めていきます。

①平成 30 年度の取組

ア 子ども、ファミリー層向けの農体験プログラムの実施

成城幼稚園の幼稚園教諭と連携して、(公財)伊勢原市みどりのまち振興財団で管理している農地にて、子ども、ファミリー層を対象にした地域資源(農)体験プログラムを実施しました。

イ 地域特性を生かした景観整備に向けた検討

善波地区・笠谷戸の休耕地について、地域特性や地元まちづくり組織の考え方を整理しながら、花木植樹にむけたアドバイスをを行いました。

ウ 地元まちづくり組織と学生との協働によるまちづくり活動の試行

坪ノ内地区の散策路周辺において、市街地を望むことができる眺望を生かすため、景観整備(下草刈り)を行いました。整備にあたっては、地域住民の皆さんと、東京農業大学の学生の協働で行いました。

また、今後の活用に向けた意見交換も併せて行いました。

エ 協働事業成果のまとめ

協働事業の成果を取りまとめ、さらなる事業展開の可能性などを検討していきます。

②平成 30 年度の役割分担と実施の効果

本協働事業は、次の役割分担のもとに事業を実施します。

東京農業大学

- ・現地調査の企画立案
- ・調査結果の分析
- ・農体験プログラムの試行

伊勢原市

- ・必要な資料や情報の提供
- ・実態調査及び地域まちづくり組織との連携
- ・調査研究に係る事務的経費の負担

協働の効果

- ◇専門的な知識や人材を有する大学との協働は、蓄積された知見や研究成果などから今後のまちづくりへの展開が期待されます。
- ◇学生と地域の新たな交流が生まれ、地域の活性化につながることも期待されます。

③協働事業のこれまでの取組と今後のスケジュール

本協働事業は、基礎的な調査からはじめ、多様な主体との交流によるまちづくり活動の実践等まで複数年かけて行っていく計画です。

事業展開（案）

比々多地区周辺における農・文化資源を活用した地域活性化プログラム開発

1年目（平成29年度）

- ・地域資源（農資源、文化資源、自然資源、）の調査
- ・成城幼稚園、伊勢原農場との協働による農体験プログラムの試行
- ・地元まちづくり組織との意見交換

2年目（平成30年度）

- ・子ども、ファミリー層向けの農体験プログラムの実施
- ・地域特性を生かした景観整備への助言
- ・地元まちづくり組織と学生との協働によるまちづくり活動の試行

3年目（平成31年度）（案）

- ・地元まちづくり組織と学生等の多様な主体との協働によるまちづくり活動の実践
- ・地域活性化プログラム集づくり、今後の展開についての提案

2 協働事業の取組内容

(1) 子どもやファミリー層向けの農体験プログラムの実施

昨年度に引き続き、私立成城幼稚園の幼児に協力いただき、伊勢原市の自然豊かな環境を生かした、農体験プログラムを実施しました。

今年度は、(公財)伊勢原市みどりのまち振興財団の御厚意により、農地を御借りし、じゃがいもと玉ねぎの収穫体験を行いました。収穫した野菜は、園児たちが持ち帰りしました。

また、家に帰っても自然を感じられるよう、財団から花の種もプレゼントされ、園児たちから喜ばれました。世田谷など都市部で暮らす幼児からは、伊勢原の豊かな自然環境の中で収穫体験を行い、「伊勢原のじゃがいもがおいしかった」「伊勢原でもらった花の種をお家に植えてみる」と感想を述べるなど、伊勢原との関わりを認識するなどの効果も見られました。

平成31年度には新東名高速道路・伊勢原大山インターチェンジの開通が予定されることから、さらに多くの都市住民が比々多地区を訪れることが想定され、農を主体とした着地型観光プログラムなど充実や展開も考えられます。

(概要)

日 時：平成30年6月29日（金）午前10時～正午

場 所：（公財）伊勢原市みどりのまち振興財団 管理地

目 的：子どもやファミリー層向けへの地域資源を活用した農体験の提供

参加者：成城幼稚園の園児 約40名

内 容：野菜の収穫を通じた環境教育型農体験プログラム



夢中で芋掘りを楽しむ様子



同じ形・大きさのものはありません



たくさん収穫できました



みどりのまち振興財団の皆様

(2) 地域特性を生かした景観整備に向けた検討

善波地区・笠谷戸の休耕地については、昨年度に現地を確認し、地理的条件や景観特性を次のとおり整理しています。

＜笠谷戸の休耕地の地理的条件や景観特性＞

- ・休耕地周辺は、南東方向に向いた斜面及び段々畑となっており、みかん栽培に活用されています。
- ・休耕地は、地元の方が管理を任されており、景観を生かした花木の植樹を検討しています。
- ・国道 246 バイパス事業予定地が隣接するほか、国道 246 や小田急線、湘南江の島方面も見えることから、景観づくりを工夫することで、多くの方にPRできます。

斜面地でも生育すること、遠くからも目立ち、視認できることなどから、ハナモモを候補の一つとしました。

地元の方を中心に、下草刈りなどの準備を行い、2 月にハナモモなどを植樹しました。複数種類のハナモモを植樹しており、長期的に良好な景観形成が見込まれます。

植樹したハナモモの種類（植樹の様子は次のページ）



菊桃



寒緋桃



矢口桃



源平桃



しだれ源平桃

画像出典：
花ひろばオンライン
<https://www.hanahiroba.com/>



ハナモノの苗木（約 70cm）



皆で植えていきます



防腐剤処理をした木杭で固定します



植樹後の休耕地概観

(3) 地元まちづくり組織と学生との協働によるまちづくり活動の試行

昨年度は、ミカン畑をはじめとする農村景観や、四季の移ろいを感じさせる里山景観が地域にとって重要な資源であることを確認するとともに、地元まちづくり組織の皆さんとの意見交換を通じて、展望台や散策路等をできるところから少しずつ整備することにより、地域内外の人々が楽しめる場所になると考えました。夏の一番草が繁茂する時期に、散策路整備の重点整備ポイントを決め、地域住民の皆様と東京農業大学の学生との協働による活動案が提案されました。

そこで、平成30年度は東京農業大学の授業「源流文化学」の実習として、坪ノ内地区での里山整備や、里山文化資源の聞き取り調査を行いました。源流文化学は、「源流域における自然に学び、自然と共に生きるという源流文化を学び、安全で、健康的な自らの生活を創造する環境学生を養うとともに、源流域の変遷と成り立ちを学び、国民の共通的社会資本である源流を守り、源流域の再生をすすめる理論的基礎を学ぶこと」をねらいとし開講しています。

坪ノ内地区での源流文化学の実習では、伊勢原の市街地を眺望できる広場の草刈り整備を行いました。その後、学生は地域住民の皆様から、自然、農業、地域の文化、歴史に関する聞き取り調査を行いました。地域住民の皆さんとの里山整備やヒアリング調査を通じて、学生は、農業の鳥獣被害や日々の里山整備の大切さ、そして、地域の暮らしや文化に対する理解を深めることができました。最後に、学生は、坪ノ内地区の里山を活用するアイデアを検討しました。その中で、実習で整備した広場を、眺望を生かした休憩所に整備するアイデアや農業と観光をつなげた施設の提案、里山から湘南地方を望む眺望景観を解説した案内板設置等のアイデアが出されました。

その後、地域住民の皆さんで、学生との活動や頂いたアイデアなども踏まえて、再度打合せを行い、次年度の方針について定めていきました。実際に学生と作業を行うことで、地元の方も一層の愛着・熱意をもち、議論が展開されました。

次年度は、地域資源の調査を継続しながら、眺望景観や地域資源を生かし、かつ地域住民と学生との協働による整備作業が実施可能な場所を里山整備の重点箇所に設定し、里山景観整備を進めていくとともに、里山景観を多くの人々が楽しめるような情報発信の方法、利用プログラム開発を学生と共に提案していきます。また、里山景観を目的とした交流空間が整備されることで、見通しが良くなり、鳥獣被害の予防対策になることも期待されます。

(概要)

東京農業大学 「源流文化学」授業・実習受け入れ 計2回

第1回目 2018年7月21日(土) 9時～15時半

学生参加者 19名

住民参加者 11名

行政参加者 都市政策課 課長 飯田裕一

	都市政策課	係長	鈴木利弘		
	都市政策課	主事	谷亀文哉		
教職員参加者	地域環境科学部地域創成科学科	教授	宮林茂幸		
	地域環境科学部地域創成科学科	准教授	町田怜子		
	多摩川源流大学プロジェクト	スタッフ	杉野卓也		
	多摩川源流大学プロジェクト	スタッフ	矢野加奈子		

第2回目 2018年7月22日（日）9時～15時半

学生参加者 20名

住民参加者 10名

行政参加者 都市政策課 課長 飯田裕一

都市政策課 係長 鈴木利弘

都市政策課 主事 谷亀文哉

教職員参加者	地域環境科学部地域創成科学科	教授	宮林茂幸
	地域環境科学部地域創成科学科	准教授	町田怜子
	多摩川源流大学プロジェクト	スタッフ	杉野卓也
	多摩川源流大学プロジェクト	スタッフ	矢野加奈子

内容※2日間同じ

比々多公民館に集合し、目的、作業内容の確認等のガイダンスを行った。その後、公民館から徒歩で10分ほどの作業場所に移動し、草刈り鎌にて、草刈りを行った。昼前に作業が終了し、学生は地域散策ということで散策路予定地を徒歩で移動し、地域の魅力や景観の特性についての説明を住民の方から受けた。

公民館にて昼食後、住民の方を交えたワークショップを行い、1日目は地区の自然環境や農業等の産業について、2日目は地域の行事や文化などについてのヒアリングを行った。

（参考）

時間	主な内容	移動	備考
9:00	小田急線鶴巻温泉駅集合		遅延などの可能性もありますので早めの電車に乗りましょう
	徒歩で現場まで行きます		北口改札をでた広場に集合
	比々多公民館で着替えることもできますが、着て来れる方は作業着で来てください		
9:45	開始の挨拶、講師の紹介等		地元の皆さんに大きな声で挨拶しましょう
	ガイダンス		
10:00	現場に移動		
	作業開始		広場の草刈り、手鎌を使つての作業です。
12:30	お昼休憩		お昼は各自持参
13:30	景観ワークショップ	室内にて	良い景観を見つけて、何が必要か考える
15:00	ワークショップ終了		
	終わりの挨拶		地元の方にしっかりと挨拶しましょう
15:30	現地解散		現地での解散となります。着替え等は公民館でできます

ヒアリング用紙

伊勢原地域資源掘り起こしWS

調査した日の日付： 年 月 日 ()
 調査相手： 地元の方 役所の方
 調査した人： 学科・学年：
 学路番号：
 名 前：

【自然・農業編】
 ＊伊勢原市の地域の自然や歴史について聞き取りましょう。

（例１）地域ではどのような農業が行われてきたか聞いてみましょう。
 ＊作物名 ＊時期 ＊特徴 など

【自然・農業編】
 ＊伊勢原市の地域の自然や歴史について聞き取りましょう。

（例２）地域の自然の特徴を聞いてみましょう。
 ＊気候 ＊土など自然条件 ＊見られる生き物 など

【話しを聞いて面白いと思ったこと、感じたことを書いてみよう】

伊勢原地域資源掘り起こしWS

調査した日の日付：	年	月	日	()
調査相手	：地元の方		：役所の方	
調査した人	：学科・学年：			
	：学籍番号：			
	名		前：	

【文化・歴史編】

★伊勢原市の地域の文化・歴史について聞き取りましょう。

〈問1〉 地域の行事・祭事について教えてください。 【名称・場所】 【時期】 【内容】 【備考】
【名称・場所】 【時期】 【内容】 【備考】
【名称・場所】 【時期】 【内容】 【備考】

【文化・歴史編】

★伊勢原市の地域の文化・歴史について聞き取りましょう。

〈問2〉 地域の遊び・文化について教えてください。 【どのような遊びがあったか】 *遊び方 *道具 *時間など
【どのような文化があるか】 *言い伝えや食文化など
【話を聞いて面白いと思ったこと、感じたことを書いてみよう】

(活動の様子) 1日目



見晴らしの良いこの場所の草を刈ります



暑い中がんばりました



この日は 37 度を超える猛暑でした



住民の皆さんも刈り払い機で参加してくれました



先生から草の刈り方、鎌の使い方を学びました



終了後に意見交換等を行いました

2日目



二日目も引き続き草刈りを行いました



綺麗になりました



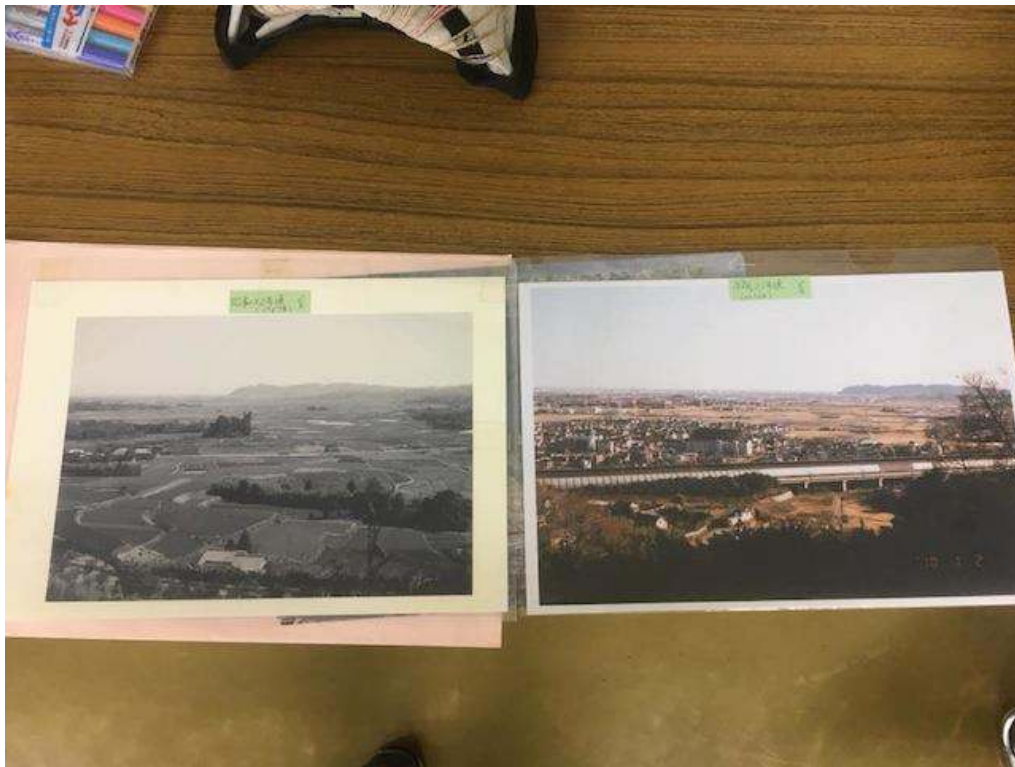
市役所の方から伊勢原市の街の構造等の話を聞きます





二日目も意見交換等を行いました





貴重な昔の写真もみせていただきました



(ヒアリング成果)

【地域への提案】

- * 遊歩道の幅を広くする
- * 遊歩道を整備する
- * 遊歩道に道しるべとなる矢印や看板を設置する
- * 見晴らしのいい場所にベンチをおく
- * ルートマップを作成し周知を図る
- * ミカンの木を生かした景観づくり
- * 遊べる場所（草ソリ等昔の遊び）できる場所が欲しい
- * 販売所を置く等、来た人からお金をとれるような場所を作る
- * フットパスを作る
- * 比々多8景みたいなものを選ぶ
- * 昔の道を直す
- * 木や倒木を片付ける
- * 歴史的な資源について、看板等を置いて目立たせる

【地域の自然や農業について】

1) 地域ではどのような農業が行われてきたか

ミカンについて	斜面の方がミカンがよく育つ
	柑橘類はほとんど育てている、地元の人がやっている
	カラタチに接ぎ木をしてミカンを増やしている
	ミカンの木が古くなってきたが、新しいものにしようすると動物に邪魔されてしまう
	ブームに乗ってミカンを作りはじめた
	ミカンは10月から2月ぐらいの期間でとれる
	種類が多く、貯蔵庫で保存したりしている
	伊勢原のミカン農家は110軒くらい
鳥獣害について	昔のミカンは酸っぱかったが、今は甘いものが多い
	鹿、イノシシ、ウサギなどに荒らされている（人が入らなくなったため）
	鹿がミカンの木の幹の皮を食べたり、角で剥ぐためミカンの木が枯れてしまう
	動物の個体数を管理したいが保護法等の観点から難しい
	ヒヨドリが大群（100羽以上）できて葉や実をつついてしまう
	鳥の被害は小さい場所であればネット等で防げるが、広い面積だと対策が難しい
後継者問題	イノシシが来るのでサツマイモは作れない
	後継者がいないという問題を抱えている
その他	サラリーマンは平日休めないの、人手が足りず有志の高齢者が行動する
	イチゴを作っている人もいる

自然・農業編

伊勢原市の地域の自然や歴史について聞き取りましょう。

2) 地域の自然の特徴等

地形・地質	比々多地区の山は突き出た形の絶壁等ぽこぽこしている
	山なので気温の変化で育てるものが代わる
	山には小川が4カ所ほどある
	山に川が多いため温度が高い
	赤土でほったらずぐに地山になる
	荒めで黒い砂は富士山からの土
雨量	雨等で流れることはあっても崩れたことはない
	雪が降るが少なめ
	雨降り山と呼ばれているが、雨が少ない
植生	昔は2月に薪をとりにいっていた
	山には落葉樹が多い、これは落ち葉を肥料にするため
鳥獣	鹿は高台で寝ている
	イノシシの生態系が変わりつつある
	イノシシ、シカ、ツキノワグマ、アナグマ、サル、ハクビシン、ネズミ、ヘビ類がいる
	ネズミやヘビ類は減っている
河川	イノシシは昔は夜来て朝帰ったが、今は昼頃までいる
	川にはうなぎや鮎がいた
	昔は森と川が一体化していた
	河川工事により川の流れやスピードが変わった
その他	昔は川のカーブで一度水の流れを弱めていた
	北からも南からも文化が入ってきた
	住みやすい土地であると思う
	遺跡がある可能性がある
	遊歩道を整備したいがなかなかすまなかった
	遊歩道が整備されたら小学生を呼びたい

【地域の文化・歴史について】

1) 地域の言い伝えについて教えてください

八幡神社に行く途中にある渦巻き岩で転んだら、下駄を片方置いていかないと怪我が直らない
関東大震災の前に海から地震音が聞こえた
平塚の浜は危ないから遊ばない

2) 地域の食文化について教えてください

鬼しめ	お煮しめ＝筑前煮のようなもの、行事の際各家庭から持ち寄った
大山豆腐	豆腐が有名
餅つき	昔は持ち回りで餅をみんなでついていた、餅つきにいくとその家の方がもてなしてくれて色々な家庭料理が食べられるのが楽しかった。2-3月は水持ちを食べていた
麦	麦を代替食にしていた
大山煎餅	
大山まんじゅう	
キヌヒカリ	コシヒカリの前はキヌヒカリを作っていた
カラシナ	秋になるとカラシナを塩漬けにする
ミカン	ミカン栽培の最北地、外国への輸出用だった

1) 地域の行事・祭事について教えてください

名称	内容	時期
だんご焼き	団子を作ったり、書き初めをし、たき火(どんと焼き)することで、風邪にならないように、字がうまくなるように等を祈る行事	1月14日
三之宮比々多神社の祭り	御神典、山車、露店等で賑わうお祭り	4月22日
コクブ祭り	一宮と二宮の喧嘩を三ノ宮が仲裁するというストーリーの祭り	5月5日
お参り	なくなった方の霊を慰める小田原のお地蔵様のところに行く	8月23日
八幡神社のお祭り	太鼓の競争、豚汁、餅つきなど	9月の第2日曜

2) 地域の遊びや文化について教えてください

大山コマ	小学生対抗などもしていた、作る人が高齢化している(3名ほど)
セミ風	大山の傾斜で風をあげる
バランスボール	ニュースポーツというものもよく行われている
結婚した男性を火に投げる	その年結婚した男性を火の中に投げる行事
狩り	昔はイノシシ狩りや野鳥狩りをしていた
虫取り	カブトムシやクワガタが捕れる
川遊び	麦わらの束を使って壱を作って水かきを上げていた

ヒアリングにより、学生達の地域に対する理解が深まり、アイディアも活発に出てきた。

【学生達の反応】

- * 地域の方と一緒に作業できて楽しかった
- * 伊勢原市にこんなに文化が残っていると知らなかったのがよかった
- * 地域の方にヒアリングして、自然や動植物の事を聞くことができて勉強になった
- * 最初は暑かったのが大変だったが、刈り終わった後の場所を見ると気持ちよかった
- * 文化や歴史等は目に見えないものなので、聞くことができてよかった
- * 言い伝えがおもしろかった

【教員より】

- * ヒアリングをすることで地域を深く理解すること、地域の方々にお話を聞く大切さを学ぶことができた
- * 大人数の受け入れになると道具の準備や貸し出しについて考えておく必要がある
- * 地域の方が希望する実習を、時期を見て考えたい。また来年もぜひお願いしたい

(3) 協働事業成果のまとめ

平成 30 年度の協働事業では、農体験プログラムの実施、地域特性を生かした景観整備に向けた検討、地元まちづくり組織と学生との協働によるまちづくり活動の試行などを実施しました。

比々多地域は、果樹栽培などの農地が多く、里地里山の風景が広がっている地域です。また、歴史や景観などの地域資源が豊かですが、それらを地域活性化につなげていくためには、継続的な取組が必要です。

今年度は、地域住民と学生が協働して実践的なまちづくり活動を行いました。少子高齢化が徐々に進行している地域にとっては、若い人との交流は刺激となり、地域の価値の再発見や活性化につながります。学生にとっても、地域住民の皆様と協働して、景観まちづくり活動の実習をするとともに、農業などの生業や慣習、地域文化を教えて頂いたことは、現場や地域の人々との交流があつてこそ得られる貴重な地域づくりの実践の場となりました。さらに、地域住民の皆様の地域づくりに対する積極的な取り組みやコミュニティのつながり、加えて、行政サポートや大学との連携など、多様な主体との協働によるまちづくりの意義や各主体の役割を学ぶことができました。

また、伊勢原市比々多地域に代表されるような都市近郊における里地里山は、観光・レクリエーション、自然環境保全、国土保全など多様な価値を持つ研究のフィールドです。一方で、鳥獣被害や里地里山の維持管理の滞り、管理の担い手不足などの課題があります。そのため、都市近郊にける里地里山の魅力を発信し持続可能な里地里山保全を導くための継続的な研究の蓄積が重要となります。具体的には、坪ノ内地区の里山景観を生かした散策路整備や善波地域での花木の植樹などの取組が、周辺地域における景観まちづくりのモデルケースとなり、取組が横方向につながっていくことも期待できます。さらに、伊勢原市の既存のハイキングルートや大山や聖峰不動尊等を訪れる観光客の登山ルート、さらには、伊勢原駅など「伊勢原市の中心地域」と坪ノ内地区をはじめとする「伊勢原市の里山」とを相互につなぐ動線・利用計画へと展開することも目指していきます。